

福祉教育推進プログラム ～子どもたちの学びや育ちのために社会福祉協議会がお手伝いできること～

1 プログラムの企画・提案

学校の要望をもとに、児童・生徒の学年に合ったプログラムを企画し、活動先・指導者の調整を行います。

(1) 福祉の基礎知識編 プログラム一覧

プログラム① 福祉・ボランティアってなんだろう

…「みなさんは「福祉」という言葉を聞いたことがありますか？」この問いかけからスタートし、児童・生徒の身近なところにある「福祉」を見つけます。

プログラム② ユニバーサルデザインってなんだろう

…誰もが使いやすいデザインである「ユニバーサルデザイン」を学習するとともに、学校にあるユニバーサルデザインを探し、誰もが暮らしやすいまちについて考えます。

プログラム③ 自分を知らう、友達を知らう

…私たちの暮らす地域は大人や子ども、友達や家族などたくさんの人たちが支え合って生活しています。一人ひとりがかけがえのない存在であることを知るため、お互いを認め合い、相手の良いところに気づく心の“芽と目”を育てます。プログラムは、二人一組での自己紹介から始まり、次に四人一組となって他己紹介を行います。身近なクラスメイトが自分も気づいていない長所を気づかせてくれます。自分を好きになり、自分を大切にすることが相手を大切にすることにつながります。

(2) 当事者からの講話編 プログラム一覧

…相手の気持ちに共感できる力や、相手の立場に立って考える力を身につけます。

プログラム① 障がいを抱えながら力強く生きている方

プログラム② 福祉の職業についている方

プログラム③ ボランティア活動実践者・市民活動実践者

(3) 高齢者理解・障がい者理解編 プログラム一覧

…高齢になるとどのようなことに困るのか、障がいがあるとどうということかについて学び、誰もが住みやすい地域にするため、自分にできることを考えます。

プログラム① 車イス体験

プログラム② 見えない世界・聞こえない世界の体験

プログラム③ 高齢者・認知症の理解

プログラム④ 手話・点字・音声訳学習★

プログラム⑤ 障がい者理解

プログラム⑥ ニューススポーツの体験

各プログラムの所要時間は30～40分です。複数のプログラムを組み合わせ実施することもできます。

※ ★印のついたプログラムは所要時間が100分程度必要となります。

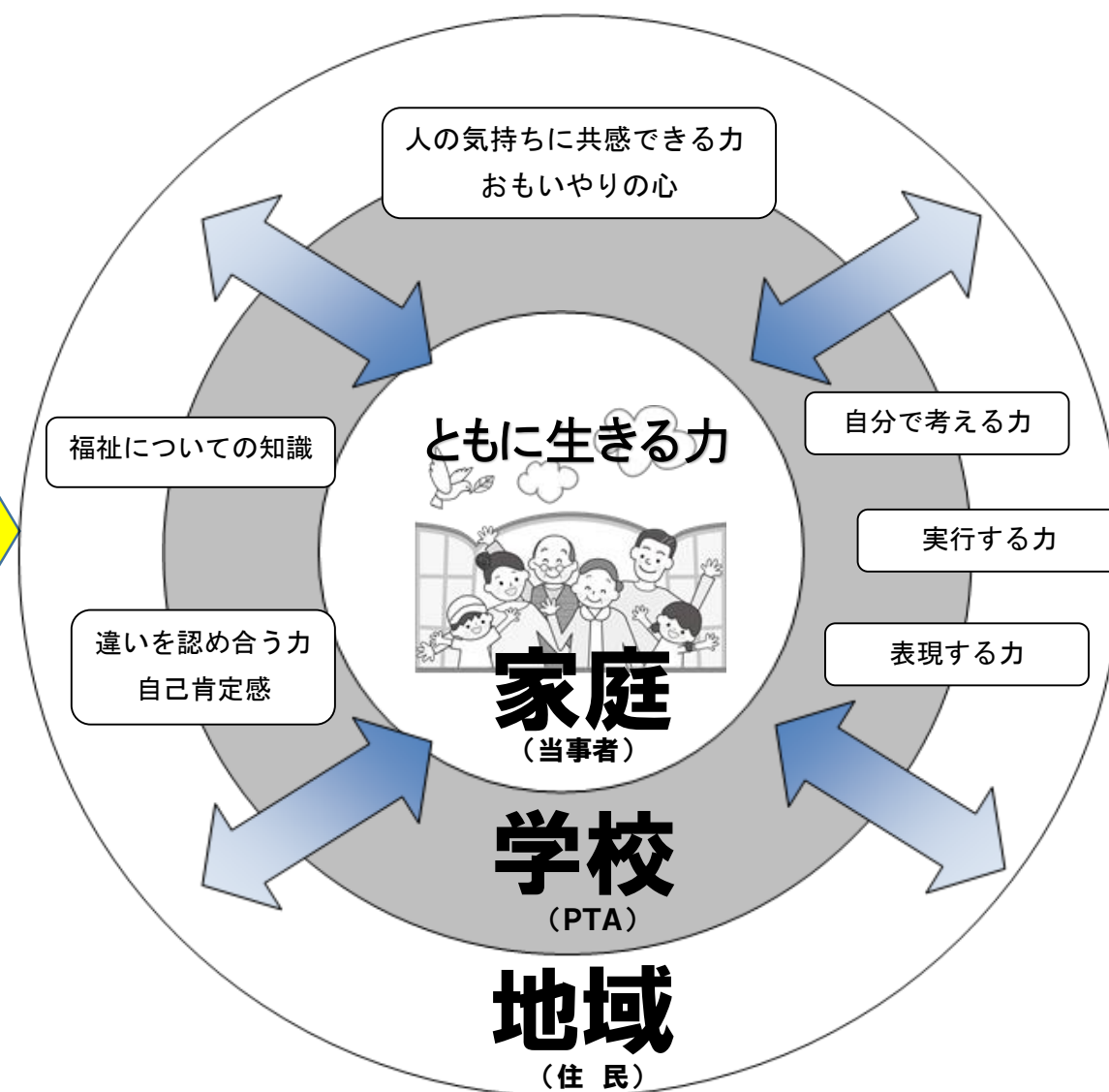
2 次の発展への提案

学校と地域とのつなぎ役として、座学で学んだことの実践の場を調整します。

(1)現場で体験してみよう…施設への訪問など、ボランティア体験の調整をします。

(2)地域に出て体験しよう…児童・生徒が自分の暮らす身近な地域への関心や理解を深めるために、ふれあいサロンなど地域の活動の場への参加を調整します。

福祉教育が目指すイメージ図



『地域とのつなぎ役～社会福祉協議会～』をご活用ください。

社会福祉協議会は、福祉教育プログラムの企画・提案をつうじて、「学校」「地域」「家庭」をつなぎ、地域みんなで「福祉」を考える機会を作ることで、「福祉のまちづくり」を推進します。